



取扱説明書

この度は、当社の投射型非接触式体温計をお求め戴きまして、誠にありがとうございます。

ご使用の前にこの取扱説明書をよくお読みいただき正しくご使用ください。

なお、お読み戴きました後も、この取扱説明書を大切に保管してください。

安全にご使用いただくために

本器をご使用になる前に安全上のご注意と取扱説明書をよくお読みください。

安全上のご注意

必ずお守りください

	人が死亡または重傷を負うおそれがある内容を示しています。
	人が傷害または財産に損害を受けるおそれがある内容を示しています。

警告

- 指定の方法、条件以外での使用は絶対に行わない。過度の衝撃や振動を与えない。本器を破損したり重大事故を引き起こす恐れがあります。これらに起因する損害について製造販売業者はその責任を負いません。
- 電子レンジなどのマイクロ波加熱炉の温度測定は絶対に行わない。本器を破損したり重大事故を引き起こす恐れがあります。
- 故障が疑われる場合は使用しない。使用前に亀裂、破損等の異常がないかを充分確認し、本器の使用中に異常(発煙・異臭・異音など)が発生した場合は、すぐに使用を中止する。
- 本器の分解、改造は行わない。修理が必要な場合は、購入された販売店にお問い合わせください。これらに起因する損害について製造販売業者はその責任を負いません。
- 本器を加熱したり火中に投入しない。破裂による火災、怪我の恐れがあります。
- 危険物、発火物、爆発の恐れがある場所では使用しない。重大事故を引き起こす恐れがあります。
- 本器を濡れた手で扱ったり、水や液体で濡らさない。感電のおそれがあります。
- 本器や電池などの付属品を乳幼児の手の届く所に置かない。万一、電池を飲み込んだ場合は、すぐに医師に相談する。
- 電池の液が目に入ったときは失明などの恐れがあるので、すぐに多量のきれいな水で洗い流し、医師の治療を受ける。
- 電池の液が皮膚や衣服に付着した場合には、すぐに多量のきれいな水で洗い流す。
- 電池を火に入れたり、加熱、分解、改造などしない。
- 電池のプラス、マイナスを逆にして使用しない。
- 付属の電池を充電しない。充電すると液漏れ、発熱、破裂の恐れがあります。
- 電池のプラス、マイナスを針金などで接続したり、金属製のネックレスやヘアピンなどと一緒を持ち運んだり、保管をしない。
- 新しい電池と使用した電池や古い電池、銘柄や種類の異なる電池を混ぜて使用しない。
- 使い切った電池はすぐ本器から取り出す。
- 指定されている電池以外は使用しない。
- 本器は防水仕様ではありません。濡れている時や湿気の多い場所では絶対に使用や電池交換をしない。また濡れた手で電池交換をしない。感電の危険があります。

- 電池を交換する際は、必ず電源が切れた状態で行う。
- 電池交換後は必ず電池カバーを閉めてから使う。
- 長期間使用しない場合には、本器から電池を取り出す。

注意

- 高温や低温のところ、直射日光の当たるところ、湿気やホコリの多いところでの使用や保管はしない。保管環境温度以外の環境下で保管しない。故障の原因になったり、正しい測定ができなくなります。
- 周囲に雑音を発生させる装置のある場所や、静電気の溜まっている物体の近くでは使用しない。表示が不安定になったり、誤差の原因となります。
- 外部の強力なノイズ等により測定ができなくなった場合や、表示に異常が発生した場合は一度、電池を取り外して入れ直し、本器をリセットしてください。
- 本器のレンズを太陽や強い光源に向けない。測定センサーが破損する恐れがあります。
- レンズに傷があるときは使用しない。レンズに傷がある状態では正しい測定結果を得られません。
- 測定する物体にレンズを接触させない。傷がついたり、汚れや異物が付着すると、誤動作の原因になります。
- 測定センサーや投射ライトを強く押したり、硬いものや鋭利なもので突いたりしない。故障の原因になります。
- 付属のネックストラップは本器以外に使用しない。
- ネックストラップを首にかけて本器を持ち運ぶときはポケットに入れる。他のものに当たったりして故障やけがの原因となることがあります。
- ネックストラップと本器を接続した状態で振り回したり、強く引っ張ったりしない。故障やけがの原因となることがあります。
- ネックストラップの使用時は扉や突起したものに引っかかったり、引き込まれないよう十分注意する。
- ネックストラップは口に入れたり、首に巻き付けない。

1.概要

- 本器は人体から放射される赤外線を検出する非接触式の体温計です。本器をおでこ(額部)に近づけボタンを押すだけで、皮膚に触れることなく体温を測定することができます。
- 付帯機能として、物体表面温度や室内温度を測定する機能があります。

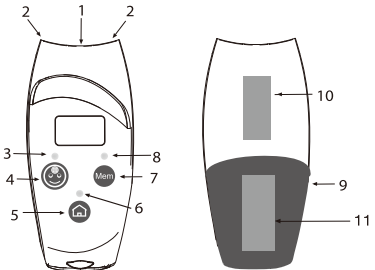
2.仕様

項 目	仕 様
体温測定範囲 (測定部位・額)	+34.0℃～+42.5℃
物体表面温度測定範囲	+ 1.0℃～+55.0℃
室内温度測定範囲	+ 5.0℃～+40.0℃
確度 (体温)	+ 1.0℃～+19.9℃：±1.0℃
(物体表面温度)	+20.0℃～+35.9℃：±0.3℃
(室内温度)	+36.0℃～+39.0℃：±0.2℃
	+39.1℃～+42.5℃：±0.3℃
	+42.6℃～+55.0℃：±1.0℃
最小表示単位	0.1℃
測定結果保存数	最新9件
使用環境温湿度	+16℃～+40℃※1 15～93%RH (但し、結露のないこと)
保管環境温度	－10℃～+60℃ (但し、結露のないこと)
電源	単4形乾電池(1.5V) x2個
電池寿命	約1,000回(使用状態で異なります)※2
オートパワーオフ機能	測定終了後、約15秒後に自動で電源オフ
電撃保護の形式と程度	内部電源機器、BF形装着部
寸法	約(W)43.5×(H)94.5×(D)21.5mm
重量	約60g(電池含む)
付属品	取扱説明書、添付文書、 単4形乾電池(1.5V)×2個、ネックストラップ

※1: +10.0℃～+15.9℃の温度範囲でも[顔]ボタン  を操作できます。
また+5.0℃～+15.9℃の温度範囲でも[ホーム]ボタン  を操作できます。
いずれの場合も確度は保証されません。
この時測定温度は $\frac{1}{10.5} \sim \frac{1}{31.5}$ のように「Lo.5」と温度が交互に投射表示されます。

※2: アルカリ乾電池使用時
本器に添付されている電池は動作確認用です。
初めてご使用いただく際には、必ず新しい電池と交換してください。

3.各部の名称

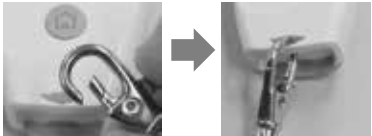


No.	各部の名称	機 能
1	測定センサー	放射赤外線を感じ取る部位
2	投射ライト	温度と2つの光を投射する部位
3	[顔]ボタンLED	体温投射時に点灯
4	[顔]ボタン 	体温を非接触にて測定するボタン
5	[ホーム]ボタン 	物体表面温度を非接触にて測定するボタン
6	[ホーム]ボタンLED	物体表面温度投射時に点灯
7	[Mem]ボタン 	1回押下：室内温度を測定する 2回以上押下：本器に保存されている測定値を投射 約8秒間長押し：口内/直腸/わきの下の設定モードが変更できる
8	[Mem]ボタンLED	室内温度投射時及び、保存温度投射時に点灯
9	電池カバー	電池収納部の保護
10	シリアル番号ラベル	本器のシリアル番号の表示
11	定格ラベル	本器の定格の表示

 **注意** ・定格ラベル、シリアル番号ラベルは剥がさない。

<ヒント>

ネックストラップをご使用になる際は、本器下部の穴にネックストラップ先端の金具を接続し、本器はポケットに入れて持ち運んでください。



4.表示(投射時)

	No.	名称	内容
①	①	温度	測定温度を表示
②	②	測定単位	温度の単位(摂氏)
③	③	測定距離確認ポインタ	本器と測定対象が適切な距離に保たれているか確認する。 本器と測定対象が適切な距離に保たれていると、2個の点の間に温度が投射される。 本器と測定対象が適切な距離に保たれていないと、温度が2個の点のいずれかに部分的に重なって投射される。

5.準備

5－1．電池の装着および交換

開梱したらすぐにキズや変色など外観上の異常や付属品に欠品がないかを確認してください。

万一、不具合がありましたら購入された販売店までご連絡ください。

- 本器の裏側にある楕円形のくぼみに親指を置いて押しながら電池カバーをスライドさせ、カバーを外します。(図1参照)
- 古い電池が装着されている場合は、取り出してください。
- 新品の単4形乾電池を2個(アルカリ電池推奨)極性を確認して装着します。(図2参照)
- 電池カバーは開けた方向と逆方向にスライドさせると閉まります。(図1参照)

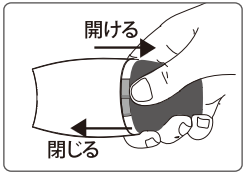


図1

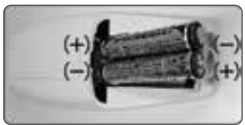


図2

注意

- 電池残量不足が投射表示されたら、すぐに電池を交換する。正確な温度測定ができません。
- 電池交換後は、本器の状態が安定するまで20分程度待つてから使用してください。

<ヒント>

- 電池交換後に[F01]が投射表示されることがありますが、異常を示すものではありません。

5－2．室内温度の校正

温度の異なる場所(別室や引き出しの中など)から本器を持ってきて体温を測る場合などに、[顔]ボタン  を押すと「[R]」が投射表示され、[顔]ボタンLEDと[ホーム]ボタンLEDが点滅することがあります。

この時は、正しく体温が測定できないため以下の手順で本器の校正を行い、装置の状態が安定してからご使用ください。

①自動校正方法

自動的に校正を行います。終わるまで10分程度、本器を使用する環境(+16℃～+40℃)に放置し、本器に手を触れないでください。手で握ったりすると温度変化を感知して正確な校正ができません。

<備考>

[顔]ボタン  を押したとき「[R]」が投射表示されなくても、本器を異なる場所に移動させた場合などは、本器をご使用になる前に10分程度、自動校正を行ってからご使用になることをお勧めします。

②手動校正方法

すぐに測定したい場合には手動校正を行います。

正確な測定を行うため、<手動校正時の注意>をよく読み、正しく校正を行ってください。

通常は「①自動校正方法」にて校正を行ってください。

- [顔]ボタン  と、[ホーム]ボタン  を同時に押し、両ボタンから指を離すと、[ホーム]ボタンLEDが点滅します。(図3参照)
- [ホーム]ボタンLEDが点滅している約10秒以内に室内温度と同じ均一温度で汚れのない物の床から約80～150cmの場所に本器を向け、[ホーム]ボタン  を押し続けると2個の点(測定距離確認ポインタ)と温度が投射されます。(図4参照)
- [ホーム]ボタン  をそのまま押し続けながら、投射されている温度が2個の点(測定距離確認ポインタ)の間に表示されるように本器を投射面から遠ざけたり近づけたりして位置を調整後、[ホーム]ボタン  から指を離すと温度がゆっくり点滅します。
- 温度の点滅が終わったら本器の校正が完了し、自動的に電源がオフになったら使用できる状態になります。

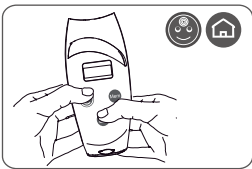


図3

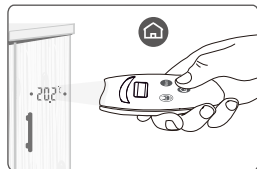


図4

<手動校正時の注意>

手動校正は室内温度が+16℃～+40℃の時に行うことができます。正しく校正するためには、室内温度と同じ温度の内壁や単筒などに本器を向け、投射表示をしてください。外壁や表面が熱い/冷たい面(空調機、ランプ、コンピュータ、人体に接触している面等)、エアコンなどの風が当たっている面には向けないでください。正しく校正ができず、正確な測定ができません。手動校正が正しくできない場合でも、同じ環境に10分程度放置すると自動校正により正確な測定ができるようになります。(①自動校正方法 参照)

5－3．換算部位の変更

本器は換算部位を変更することができます。

- 本器に電源が入っていない状態で、本器を均一な面に向けます。
 - [Mem]ボタン  を押し続けると「[R]」が表示され、約8秒後に設定が「[R]」(口内温度)→「[Ec]」(直腸温度)→「[R]」(わきの下温度)の順に投射表示されます。
 - 希望する設定が表示されたら、[Mem]ボタン  から指を離します。
- <備考>
- 換算部位の設定にかかわらず、体温測定は常におでこ(額部)の中心(6-2項参照)にて行ってください。
 - わきの下の温度に比べ、口内の温度は高く、直腸の温度はさらに高く投射表示されることが一般的です。

6.測定

6－１．測定の前に

下記に記載されている＜使用上の注意＞をご確認の上、ご使用ください。
＜使用上の注意＞が守られない場合、製品が正常な状態でも、正しい測定ができません。

＜使用上の注意＞

- 体温を確認するための製品であるので、医師による診断に代わるものではないことに注意する。
- 本器が周囲の温度になじんでいないと測定誤差が大きくなるため、測定時は10分程度、測定する場所にて自動的に校正を行う。すぐに測定したい場合は「5－２．室内温度の校正」②手動校正方法に従って校正を行う。
- 測定前に長時間、本器を持たない。
- 体温測定モードでおでこ(額部)または、閉じたまぶた以外の体の部位に対して使わない。
- 興奮状態や額部に汗をかいているとき、肌が紅潮しているとき、脈拍が早いとき、血管収縮薬の摂取時、皮膚のかぶれがあるとき、虚脱時などに測定をすると、温度変化として現れる場合があることに留意する。
- 測定部位の体温が奪われるような通気の良い場所では測定しない。
- 以下の状態にあった場合は測定部位の温度が安定するまで待ってから測定する。
 - 直前まで運動をしていた場合。
 - 直前まで測定場所と著しく異なる気温下にいた場合。
 - 直前まで冷湿布などを額部に当てていた場合。
 - 直前まで帽子などを着用していた場合。
 - 直前に入浴やシャワー、サウナやヘアドライヤーを使用していた場合。
- 測定部位の汗や化粧品はふき取ってから測定する。
- 測定部位に接触して測定しない。
- 測定部位に対して測定センサーを5～6cmの距離で垂直に向ける。
- 耳・額・わきの下などの平熱をあらかじめ検温しておく。個人差により、額とわきの下の体温が約1℃異なることがあります。
- 暖房機の近くなど、温風が直接あたるところで測定しない。
- 怪我を防ぐため子供だけで使わせない。

6－２．体温の測定(おでこ(額部))

購入後、初めてご使用になる場合は、「5-1項」に従って、単4形乾電池2個を本器に入れてください。

- (1) おでこ(額部)に本器の測定センサーを近づけ、[顔]ボタンを押し続けると2個の点(測定距離確認ポイント)と体温がおでこ(額部)に投射されます。
- (2) [顔]ボタンをそのまま押し続けながら、投射されている体温が2個の点(測定距離確認ポイント)の間に表示されるように、本器をおでこ(額部)から遠ざけたり、近づけたりして位置を調整後、[顔]ボタンから速やかに指を離します。(図5、図7参照)
- 体温表示が安定し、[顔]ボタンLEDが点灯したら測定完了です。

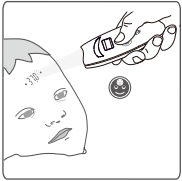


図5

＜参考＞

体温表示が安定しない場合でも、5秒以内に一度、[顔]ボタンを放し、[顔]ボタンLEDが消えてから再度、操作を行ってください。5秒以上押し続けると正確な体温が測定できません。

本器が近すぎたり、遠すぎたりすると体温が2個の点(測定距離確認ポイント)のいずれかに部分的に重なって投射されます。(図6、図8参照)

最適な距離になると、2個の点(測定距離確認ポイント)の間に体温が投射表示されます。(図7参照)

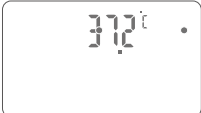


図6 近すぎる場合

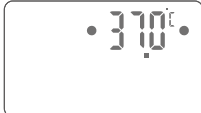


図7 最適な位置

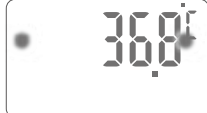


図8 遠すぎる場合

- (3) 測定完了後、10秒程度[顔]ボタンLEDが点灯し、体温が投射表示されるので、見づらい場合など体温を読み直したい場合(自己測定の場合など)は、本器を他の面に向けてください。
- この時、本器は体温を再測定するわけではなく、測定済みの体温を投射しているだけなので、本器と投射面の距離を気にする必要はありません。

- (4) その後1～3秒程度、現在設定されている換算部位(口内/直腸/わきの下) (5-3項参照)が表示されます。
- (5) その後、自動的に電源がオフになります。

＜参考＞

- 続けて測定を行う場合は、[顔]ボタンLEDが消え、電源がオフになった後に再度、測定を行ってください。
- [顔]ボタンLEDが点灯中にボタンを押すと正確な測定ができません。

＜体温測定時のヒント＞

- おでこ(額部)での測定が困難な場合は、閉じたまぶたでも測定ができます。(図9参照)
- ただし、その際に得られる測定値の確度は保証されません。おおよその目安としてご使用ください。
- 投射ライトはIEC62471に準拠していますが、目に負担をかけないよう、投射ライトを見ることはやめてください。
- 投射ライトがあたっている場所の温度が測定されます。そのため、投射ライトが眉毛、髪の毛、帽子やスカーフなどで妨げられることがないように注意してください。
- 全ての人に共通する「正常な体温」というものはありません。また体温は測定する部位や測定時間、身体活動や精神的な変化(赤ちゃんの泣くことなど)によっても変わります。さらには、外気温や検温の仕方、その他の要因によっても影響を受けます。熱があるかどうかを正しく判断するには、あらかじめ健康時の時間帯ごとの平熱を知っておくことをお勧めします。
- 測定センサー、投射ライトは本器の重要で、繊細な部位です。常に清潔にして、ほこりや汚れ、傷が無い状態にしてください。(7項参照)
- ほこりや汚れ、傷があると正しい測定結果が得られません。



図9

6－３．物体表面温度の測定

本器は物体、食品、液体などの表面温度を+1.0～+55.0℃の範囲で測定します。

- (1) 被測定物に本器の測定センサーを近づけ[ホーム]ボタンを押し続けると2個の点(測定距離確認ポイント)と温度が投射されます。
- (2) [ホーム]ボタンをそのまま押し続けながら、投射されている温度が2個の点(測定距離確認ポイント)の間に表示されるように本器を被測定物から遠ざけたり、近づけたりして位置を調整後、速やかに[ホーム]ボタンから指を離します。(図7、図10参照)
- 温度表示が安定し、[ホーム]ボタンLEDが点灯したら測定完了です。



図10

＜参考＞

温度表示が安定しない場合でも、5秒以内に一度、[ホーム]ボタンを放し、[ホーム]ボタンLEDが消えてから再度、操作を行ってください。5秒以上押し続けると正確な温度が測定できません。

- 本器が近すぎたり、遠すぎたりすると温度が2個の点(測定距離確認ポイント)のいずれかに部分的に重なって投射されます。(図6、図8参照)
- 最適な距離になると、2個の点(測定距離確認ポイント)の間に温度が投射表示されます。(図7参照)
- (3) 測定完了後、10秒程度[ホーム]ボタンLEDが点灯し、温度が投射表示されますので測定したものが透明であったり、色が黒すぎたり、表面が平らでないなど温度が見づらい場合は[ホーム]ボタンを離したまま、明るい色の透明でない表面に投射し直して温度を読んでください。
- この時、本器は温度を再測定するわけではなく、測定済みの温度を投射しているだけなので、本器と投射面の距離を気にする必要はありません。
- (4) その後、自動的に電源がオフになります。

＜参考＞

- 続けて測定を行う場合は、[ホーム]ボタンLEDが消え、電源がオフになった後に再度、測定を行ってください。
- [ホーム]ボタンLEDが点灯中にボタンを押すと正確な測定ができません。

＜備考＞

- 哺乳瓶、食品、風呂のお湯などの温度を測定する場合は、よくかき混ぜてから測定をしてください。
- 哺乳瓶に向けて測定をしても哺乳瓶表面の温度が投射表示され、中のミルクの温度は異なります。
- 熱い液体や食品を測定する場合はレンズがくもらないように素早く測定してください。レンズがくもった場合は次の測定まで最低30分間待ってください。

- 被測定物の表面が汚れている場合は汚れをきれいに拭き取ってから測定をしてください。
- 以下の場合はうまく測定ができない場合があります。
 - a) 被測定物の表面に光沢があったり、ピカピカと光っている場合。
 - b) ガラス越しに測定をする場合。
 - c) 周囲に水蒸気が舞っている場合。

6－４．室内温度の測定

- (1) 本器を壁などの均一で汚れのない表面に向けます。
- (2) [Mem]ボタンを短く押すと室内温度測定モードを表す「」の文字と室内温度が交互に、約10秒間投射表示され[Mem]ボタンLEDが点灯します。
- (例) 室内温度が24.5℃の場合「A」⇔「24.5℃」を交互に投射表示します。

6－５．保存された温度の呼び出し機能

- (1) 上記6-4項 室内温度表示中([Mem]ボタンLED点灯中)に再度[Mem]ボタンを短く押す毎に、直近で測定して保存された体温、物体表面温度合わせて9件分を保存番号と温度を交互に投射し、さらに投射された温度が体温の時は[額]ボタンLED、物体表面温度の時は[ホーム]ボタンLEDが点灯します。

＜参考＞

- 最新(直近の)9件が自動保存され、最も新しい測定値が保存番号1に、最も古い測定値が保存番号9に保存されます。
- ボタン操作を約10秒間行わないと自動で電源がオフになります。
- 電池を外すと保存番号と温度が消去されます。

7. 保管・お手入れについて

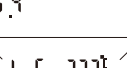
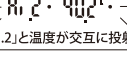
- (1) 測定センサーのお手入れ方法
- 本器の測定センサーはとても繊細です。常にきれいな状態に保つために乾燥したきれいな場所で、ほこりなどから保護して保管してください。
 - 測定センサーのほこりや汚れを除去する必要がある場合は、濃度70%のアルコールで湿らせた清潔な布か綿棒を使ってお手入れしてください。汚れを取った後、測定センサーのレンズに何も付着していないことを確認してください。
 - お手入れの際、液体が本器や測定センサーに入らないようにしてください。
- (2) 本体の汚れがひどい場合
- 水または、低刺激の石鹸水を浸した柔らかい布をよく絞って拭き、その後柔らかい布で乾拭きしてください。

！ 注意

- ・煮沸消毒したり、ベンジン・シンナー等の溶剤で洗浄しないでください。
- ・本器が完全に乾くまでは使用しないでください。
- ・お手入れ後は、最低30分待ってから使用してください。

8. トラブルシューティング

8－１．エラーコード

表示	表示の意味と解決方法
 「bAt」と温度が交互に投射	電池の交換時期が近づいています。 →E.1の表示が出る前に早めに新しい電池に交換してください。
 「bAt」と「E1」が交互に投射	電池の交換時期です。 →新しい電池に交換してください。(5-1参照)
	投射ライトが点灯し始める前に本器を動かした。 または、付近に強力な磁力場があります。 →測定が終了し、投射ライトが点滅するまで本器を動かさないでください。またモバイル機器やコードレスフォンの近くではご使用になれません。
	校正をしてください。 →校正を実施してください。(5-2参照)
	室内温度が高すぎます。(＋40℃以上) →＋16～＋40℃の室内温度で使用してください。
 「Lo.5」と温度が交互に投射	体温測定時：室内温度が＋10.0～＋15.9℃ 物体表面温度測定時：室内温度が＋5.0～＋15.9℃ →温度測定は出来ませんが、確度は保証されません。
	体温測定時：室内温度が低すぎます。(＋10.0℃以下) →＋16～＋40℃の室内温度で使用してください。 物体表面温度測定時：室内温度が低すぎます。(＋5.0℃以下) →＋16～＋40℃の室内温度で使用してください。
 「Hi.2」と温度が交互に投射	体温測定時：測定対象者が＋40.0℃以上の高熱であることを示しています。 →医師にご相談ください。

	体温測定時：測定対象者が42.5℃以上の高熱であることを示しています。 →医師にご相談ください。 →測定対象者が高熱でない場合に繰り返しエラーが表示される場合は販売店にご連絡ください。 物体表面温度測定時：測定対象物の温度が＋55.0℃以上である。 →仕様範囲内で再度測定を行ってください。繰り返しエラーが表示される場合は販売店にご連絡ください。
	体温測定時：測定対象者が34.0℃以下であることを示しています。 →医師にご相談ください。 →測定対象者が低体温でない場合に繰り返しエラーが表示される場合は販売店にご連絡ください。 物体表面温度測定時：測定対象物の温度が＋1.0℃以下である。 →仕様範囲内で再度測定を行ってください。繰り返しエラーが表示される場合は販売店にご連絡ください。

8－２．「故障かな?」と思ったら

- 温度が投射されない
→電池が無くなった、または電池が正しく挿入されていません。
電池を交換するまたは、正しく挿入し直してください。(5-1項参照)
- 温度が2個の点(測定距離確認ポイント)の間に投射されない
→本器と測定対象が適切な距離にありません。
2個の点(測定距離確認ポイント)の間に温度が投射されるまで、本器を測定対象から遠ざけたり、近づけたりして位置を調整してください。
- 投射されている温度が不鮮明で読みづらい
→投射する場所の近傍を暗くしてください。
→電池の残量が少なくなっています。電池を交換してください。(5-1項参照)
→被測定物が透明、黒すぎる、光沢がある、反射が強い、面が均一でない、湾曲しているなど、投射をする対象物として適していません。
投射をする対象物を変更してください。
- 測定センサーが破損した。
→販売店に連絡をしてください。
- 本器の測定温度が低すぎる、高すぎる
→6項の＜使用上の注意＞が遵守されていることを確認してください。
→測定センサーに、ほこりや汚れ、破損がないか確認してください。
ほこりや汚れがある場合は、7項に従ってお手入れをしてください。
破損している場合は販売店に連絡をしてください。
→本器がおでこ(額部)の中心に対して5～6cmの距離で垂直に向いているか確認してください。(図5参照)
- 投射された温度やボタンのLEDが消えない等、本器が動かない。
→一度、電池を取り外して約1分間放置後、再度電池を入れて本器をリセットしてください。
リセットしても動かない場合は、販売店に連絡をしてください。

＜保証書欄＞

保 証 書		
保 証 規 定		
本器は当社基準に基づく検査により合格したもので、下記の保証規定により保証いたします。		
1.保証期間中に正常な使用状態で、万一故障等が生じた場合は無償で修理いたします。		
2.本保証書は、日本国内でのみ有効です。		
3.下記事項に該当する場合は、無償修理の対象から除外いたします。		
a 不適当な取扱い、使用による故障		
b 設計仕様条件等を越えた取扱い、または保管による故障		
c 当社もしくは当社が委嘱した者以外の改造または修理に起因する故障		
d その他当社の責任とみなされない故障		
型番	NIR-10	シリアルNo.
保証期間	年 月 日より1ヵ年	
お客様	お名前	
	ご住所	
	電話番号	
販売店	住所・店名	
販売店様へ お手数でも必ずご記入の上、お客様へお渡しください。		

株式会社 カスタム 〒101-0021 東京都千代田区外神田 3-6-12

TEL:03(3255)1117 FAX:03(3255)1137 <http://www.kk-custom.co.jp/>